

東日本大震災から10年 大地震に備える

固危機管理課 ☎(235)4790



東日本大震災からこととして10年。いつ起こるか分からない大地震に対して私たちが今できることは「備え」です。大地震の被害状況や市の防災への取り組みを知り、市民の皆さん一人一人がそれぞれの状況に応じた行動ができるよう備えましょう。

国内観測史上最大規模の 東日本大震災

平成23年3月11日14時46分頃、東北地方三陸沖を震源に国内観測史上最大規模の地震が発生しました。地震の規模はマグニチュード9.0、最大震度7。沿岸では巨大な津波が発生し、多くの命が奪われた未曾有の災害でした。



市内の被害状況

海老名市では震度5弱を記録。軽症者1人、建物被害2棟。鉄道の運転見合わせの影響で約1000人の駅滞留者が発生し、約400人の帰宅困難者がコミセンなどに一時避難しました。

地震発生の数日後には、電力不足に対応するための計画停電が行われました。私たちの生活をはじめ、鉄道の運休や信号機の停止など、市全体への影響は多大でした。

地震に備えた市の取り組み

東日本大震災を教訓に、市は地震発生に備えさまざまな訓練や備蓄を行っています。

避難所開設・運営訓練

市内全ての避難所予定施設で、市職員と自治会が連携して訓練を行っています。災害発生時に円滑な避難所開設と避難所運営を行うことが目的です。

昨年は市職員を対象に、コロナ禍での災害を想定した避難所開設・運営訓練を行いました。



防災イベント・防災訓練に協力

防災イベントや地域で行っている自主防災訓練に、起震車や煙ハウスなどの体験機材を貸し出すほか、消火器の取り扱い指導、防災講話などを行っています。



大型防災備蓄倉庫の設置



北部(上今泉)・中部(大谷北)・南部(杉久保北)の市内3カ所に、大型防災備蓄倉庫を設置しています。約25万食

の非常食をはじめ、毛布、新型コロナウイルス感染症予防品などを備蓄し、避難所で賄いきれない場合に、物資を持ち出して活用します。また、被災したときに国から支援物資が緊急輸送される「プッシュ型支

援」に対応するための保管スペースも確保しています。

災害対策本部 オペレーションセンター 訓練

想定し得るさまざまな設定のもとで行う市職員の訓練です。職員の災害対応能力を高めるために平成27年から毎年開催しています。昨年は、地震で庁舎が利用できない状況を想定し、屋外訓練を行いました。



備えが冷静な判断を生む



危機管理課 課長
高田正道

「備え」は、いざという時の冷静な判断につながります。備えに不安があると心に余裕がなくなり、正しい判断ができなくなります。

日頃から「防災ガイドブック」のハザードマップで自分が住んでいる地域にどのような危険が潜んでいるのかを確認し、いざという時の行動をイメージしておくことが重要です。市ではさまざまな備蓄をしていますが、皆さんも最低3日、できれば1週間分の食料・飲料水の備蓄をして災害に備えましょう。

避難所では市内業者から提供を受けたパンを配布



計画停電で信号機が停止し、警察官が対応



震災当日の小田急線海老名駅。多くの人が帰宅困難者に